

臨時レポート

NYダウ2万ドル乗せ後も続伸

期待先行の株高との見方もあるが、強気ムードが慎重論に勝る

- 1月25日、トランプ大統領の経済政策期待等を材料にNYダウが初めて2万ドル台に到達。
- 期待先行との見方等から慎重論も根強いが、好調な経済指標や企業業績の発表が続けば、上昇基調が継続する可能性も。

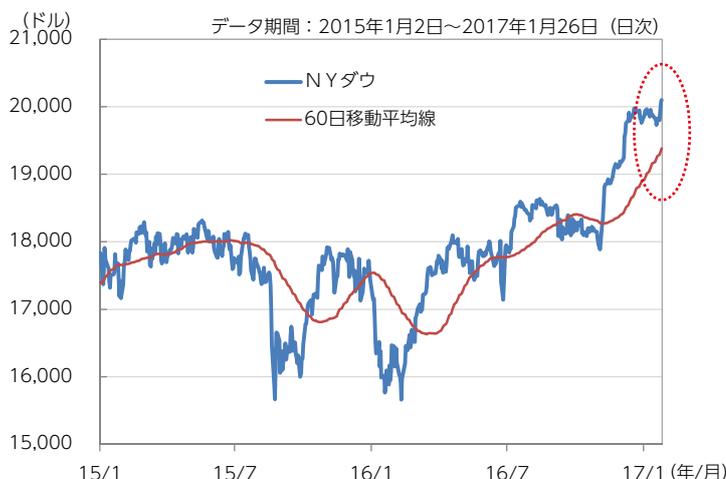
～ NYダウは初の2万ドル大台乗せ後、翌日も小幅続伸 ～

● 1月25日の米国株式市場でNYダウが史上初めて2万ドルの大台に乗せて引けました。11月下旬に1万9千ドル台に乗せてから約2ヵ月で2万ドル台に到達しました。昨年11月8日の大統領選後の上げ幅は1,700ドルを超えました。トランプ氏は大統領選勝利後に公約として掲げた大幅減税等の経済政策の詳細を明らかにせず、失望感等からNYダウは2万ドルを目前に足踏みしていました。しかし、24日に環境保護等の理由からオバマ前政権が却下していた大規模なパイプライン建設計画（カナダから米メキシコ湾に原油を運ぶ「キーストーンXLパイプライン等）を認める大統領令や、メキシコとの国境沿いに壁を作る大統領令に署名したこと等から、経済政策も公約通り実行に移されるとの期待感が強まり投資資金の流入が再び活発になったものと思われる。また、発表が本格化している2016年10～12月期の企業業績が事前予想を上回るケースが多くみられることもNYダウ上昇を後押ししているものと考えられます。尚、NYダウは2万ドル到達後の翌日26日も小幅ながら続伸して引けました（S & P 500指数やナスダック総合指数は小幅反落）。

～ 今後の見通し ～

- メキシコとの国境沿いの壁建設に加え、トランプ大統領は週内にはテロ対策として中東からの入国を制限する大統領令にも署名するものとみられており、今後排他主義的な政策が現実味を帯びてくることになりそうです。そうした動きや通商面での保護主義的な政策を懸念した売り、足元の急上昇による過熱感の高まり等を嫌気した売り等に、NYダウは一旦スピード調整に入るものとみえています。
- VIX（ボラティリティ・インデックスの略称）指数が低水準で推移していること等から判断すると、現在の市場は楽観論や強気ムードが勝った状況にあるようです。仮に今後も好調な景気指標や企業業績の発表が続くことになれば、上昇基調が継続することも考えられます。ただそのスピードが速ければ、トランプ大統領の発言等でリスク回避の動きとなった場合の反動は大きくなる可能性もありそうです。

図表1：NYダウと同60日移動平均線のかい離に注目



図表2：VIX指数（S & P 500指数ベース）低水準

